

夏の菅平で行われる“もうひとつの花園”

# KOBELCO CUP 2014

第10回 全国高等学校合同チームラグビーフットボール大会

第4回 全国高等学校女子7人制ラグビーフットボール大会

10 “もうひとつの花園”が  
年を迎えます  
高校ラグビー全力応援!



大会日程 **2014. 8.1** 金 ~ **8.3** 日 会場 長野県上田市菅平高原  
サニアパーク菅平

8.1 金 開会式 / U17・U18 予選リーグ 8.2 土 女子予選リーグ 8.3 日 決勝リーグ

「KOBELCO CUP」は、未来の日本代表を目指す全国の強豪校より選抜される「U17」の部と単独チームでは“花園”への出場が叶わない部員不足の高校の選手で構成される「U18」の部でそれぞれ北海道から九州まで全国9ブロックのチームがブロック対抗で優勝を争う大会。

「女子7人制」の部も同時に行われ、今年で第10回を迎える。

ぜひ、見に来て下さい!



今年で第10回大会となる「KOBELCO CUP」について、全国高等学校体育連盟ラグビー専門部部長の柴田 淳さんと、第1回より特別協賛社としてこの大会をサポートしている神戸製鋼グループの萩本 光威さん（神戸製鋼所・秘書広報部次長）に聞きました。

KOBELCO CUPは  
夢の大会です!



左 柴田 淳さん 右 萩本 光威さん

# KOBELCO CUP とは?

## 合同チームの大会が誕生したきっかけは?

**柴田** 残念ながら、高校ラグビーの競技人口は1992年をピークに減少しています。部員不足のため15人制の単独チームを編成出来ないラグビー部に所属する高校生のために、合同チームの全国大会をつくることは高校ラグビー関係者にとって大きな課題であり夢でした。そんな中、2005年に北海道・夕張市でこの大会は、部員不足の高校から選抜して編成する「U18の部」と将来の日本代表を目指していち早く強化につなげる「U17の部」を同時に開催し、それぞれ北海道から九州まで全国を9ブロックに分けたブロック対抗の形で始まりました。2008年の第4回大会からは、舞台をラグビーのメッカ長野・菅平高原に移し、そして2011年からは「女子7人制の部」も加わり、今年で10回目を迎えます。

## 神戸製鋼グループの協賛も10年目となりましたが

**萩本** 私ども神戸製鋼グループは、企業としてラグビー部を持ち、高校ラグビーを筆頭とする“競技人口の裾野開拓や底辺拡大”には大いに応援したい気持ちを持っておりまして。そんな時に、「ラグビー活性化プロジェクト」の一環として、この大会が出来ると聞いてサポートさせていただく事になりました。



夕張メロンが大人気のバーベキュー  
(2007年 第3回大会より)

## 10年目を迎えるにあたり、ここまでの大会の成果はいかがですか?

**柴田** 強化が目的の「U17の部」では、この大会で日中韓の大会に臨む日本代表メンバーを選んでいることもあり今や世界へと繋がっています。また、普及を目標に掲げている「U18の部」のレベルアップは目を見張るものがあります。これは2008年度より始まったこの大会で選抜されたメンバーが花園で戦う「U18合同チーム東西対抗戦」の影響も大きいと思いますが、部員不足で合同チームでしかプレー出来ずに高校ラグビーを“卒業”した選手が、その後大学や社会人でラグビーを続けるケースも増えており、大変喜ばしいことだと思っています。



## トップリーグのチームを持つ神戸製鋼グループならではのサポートもあるそうですね

**萩本** 第1回大会より、この大会は色々な意味で「夢の大会」ですので、チーム（コベルコスティーラーズ）のメンバーも指導という形で参加させていただいております。第4回大会からは、「U18の部」の9ブロックに1チームにつき1人の現役選手かOBで指導のサポートに付かせていただくようになりました。わずか数日間なのですが、高校生にとっても、ウチの選手にとっても貴重な経験となっているように思います。



コベルコスティーラーズの選手による指導

## 今年の第10回大会も含めて、今後の展望や抱負は?

**柴田** 今、日本ラグビー界は、5年後に迫った2019年日本ワールドカップ、翌年の東京オリンピックと最大のビッグイベントを控えています。「U17の部」と「女子7人制の部」ではこの大会からその大舞台に立つ選手を送り出したい。そして、「U18の部」は合同チームでも全国大会という夢の大会であり続けたいと思います。皆さんも、ぜひ夏の菅平にいらして下さい。



## 今年の大会展望

昨年は、U17,U18共にカップの部（予選1位グループ）は九州ブロックが優勝した。U17は5回目の優勝、U18は初優勝であった。U17は過去九州の他、近畿3回、関東1回のカップ優勝、しかも常に関東・近畿・九州という組合せになっており、まさにブロックのレベルを象徴する形となっている。他ブロックの今後の健闘に期待したい。



U18は、近畿7回、中国1回、九州1回のカップ優勝となっている。ただ、カップグループに勝ち上がってくるブロックは北海道・中国・四国などが数度上がってきており健闘が目立っている。選手層の厚いブロックがやはり強いという傾向は否めないが、練習を積んできたブロックにチャンスがあるといえると思う。

第7回大会より、女子のセブンス大会も併せて開催することになった。経験者グループと初心者グループに分けて行っているが、経験者グループは、第1回が6チーム、第2回が8チーム、第3回が9チームと年々参加チームが増加し、盛り上がった大会となっている。U17,U18、女子セブンスとそれぞれがレベルアップしており、目が離せない大会になりそうだ。  
(全国高体連ラグビー専門部顧問・石渡利昭)

## Message

神戸製鋼グループが協賛する「KOBELCO CUP 全国高等学校合同チームラグビーフットボール大会・全国高等学校女子7人制ラグビーフットボール大会」が、今大会で10年目を迎えられることを非常に喜ばしく思います。この大会を経験された多くの選手が、日本代表のジャージを纏い世界で活躍しています。2019年の日本開催ワールドカップでも、多くの「KOBELCO CUP」経験者が活躍することを願います。神戸製鋼グループは、高校ラグビーの活性化・普及に、今後も一層の支援をして参ります。



株式会社 神戸製鋼所  
代表取締役社長 川崎 博也

## U18 合同チーム東西対抗戦も開催!

“もうひとつの花園”の夢の完結する場所として用意されたのが、全国高校ラグビー大会決勝戦の前に「聖地・花園」で行われるこの試合だ。

2009年より始まったこの東西対抗戦には、夏の「KOBELCO CUP」で選考された50人の選手たちが、東西に分かれて憧れの花園でプレーをする「夢の試合」となっている。

第6回となった前回の試合は、前半、バックスの展開力に優る西軍が開始2分で先制のトライ。その後も、FWで魅せたトライなどで着実に加点し、19対0とし前半を終了。両軍とも、メンバーを入れ替えて臨んだ後半は、まさに一進一退の攻防が続く。均衡が破れたのは、後半22分。東軍のゴール前10m付近のスクラムから、FL7番の伊勢田（九州・福岡西陵高校）が持ち込んでトライ。勝負の行方を決定付けた。結局、さらにもう1トライを追加した西軍が31-0で東軍に圧勝。東軍は、ノーサイド寸前まで西軍ゴールをおびやかしたが、厚い西軍ディフェンスの前に無得点に終わった。

通算成績は、西軍の5勝1敗となったが、試合終了後、両軍監督からラグビーへの熱い思いや感謝の気持ちは忘れないようになど、ねぎらいの言葉をかけられ、3年間合同チームでしかプレーが叶わなかった選手たちは、一生の思い出を胸に「聖地・花園」を後にした。  
(全国高体連ラグビー専門部前副部長・阿部雅博)



“你知道 KOBELCO 吗?” (中国語)

“क्या आपको KOBELCO का पता है?” (ヒンディー語)

“คุณรู้หรือไม่ KOBELCO?” (タイ語)

“KOBELCO 를 알아요?” (韓国語)

“Bạn có biết KOBELCO?” (ベトナム語)

“Do you know KOBELCO?” (英語)

世界で噂されています。

KOBELCO



# KOBELCO CUPに出場して



きづ たけし

**木津 武士** (HO)  
神戸製鋼コベルコスティーラーズ  
第1回大会 (2005年) U17 近畿ブロックで出場

中学 (東大阪市立小阪中) の時に近畿大会で優勝し、自信満々で東海大仰星高校に入ったのですが、さすが全国のトップレベル。あまりにすごくて、早や壁にぶち当たりました。そんな中、2年生になって、初めてブロック選抜チームに選ばれて出場したのがこの大会です。当時のU17近畿チームには、仰星のチームメイトが私を含めて7人が選ばれましたが、皆で「北海道に行く！」と喜んだのを覚えています。

試合は、「相手がどこであろうが勝って当たり前」ぐらいの気持ちで臨んだことが好結果につながり、カップの部で優勝することが出来ましたが、試合よりも楽しみに

していたのが、宿舎での交流でした。同じ宿舎に他のブロックのチームも一緒だったので、ゲームをしたり、ラグビーの話をしたり、また先生方に用意いただいたジンギスカンがとても印象に残っていて、夕張メロンもおいしかったです。また、体育館でスティーラーズの選手の皆さんが話をしてくれて、大畑さんにサインをもらったのも大会の思い出です。今、こうして自分がコベルコスティーラーズに入るとは思いませんでしたが...。(笑)

今も、コベルコスティーラーズの選手やOBによるコーチングがあると聞いていますが、私もぜひ参加させていただきたいと

思っています。

今年の大会に出場する後輩の皆さんへ望むことは、私自身が心がけていることでもあります。選抜チームでは、必ず自分と同じポジションのライバルがいて、タイプの違うプレーヤーである場合も多いと思うので、ライバルの「良いところ、自分に足りないもの」を学んで盗むことです。私も日本代表に選ばれた時は、先輩方に直接話を聞いて、「持ち味を盗んで学ぶ」ことを意識しました。

今年の大会に出場する選手の皆さん、選抜チームならではの良さを活かして頑張ってください。

**Profile**

祖父、父と三世代にわたった相撲一家だったが、チームスポーツに憧れてラグビーの道を選ぶ。東海大仰星高校時代は、全国優勝を経験。東海大学から2011年に神戸製鋼入社。日本代表キャップ数22。

うさみ かずひこ

**宇佐美 和彦** (LO)  
キャノンイーグルス

第5回大会 (2009年)  
U18 四国ブロックで出場



長いホイッスルが鳴ったと同時に、歓声が沸きあがった。大学最後の試合が花園で終わった。国立への夢は叶わなかったけれど、7年前に今の自分を想像することは全くできなかった。

高校入学後に始めたラグビー。人数が15人揃うことなく、公式戦への出場は合同チームになることもあった。

高3の夏に、四国ブロックでU18の合同チームに選抜されて、全国大会を経験することができた。レベルの違いを痛感し、もっともっと上手になりたいと思った。

大学 (立命館大学) 進学後に、ますますその思いは強くなった。ラグビー強豪校出身の同級生たちはひと回りもふた回りも大きく見えた。追いかけるのに必死だった。そんな中、U20等の代表に選出され、経験を積むことでとても成長させてもらったと思う。

今年からトップリーガーとなり、大学時代に成しえなかった、国立に行くこと、日本代表になることが新たな目標となった。

**Profile**

愛媛県立西条高校入学後にラグビーを始める。立命館大学時代は、中心選手として活躍し、U20日本代表に選ばれた。日本代表候補で今春よりキャノンイーグルスに所属。

あべ だいち

**阿部 大地** (HO)  
流通経済大学 4年

第6回大会 (2010年)  
U18 関東ブロックで出場



私は高校からラグビーを始めましたが、当時のチームは15人に満たないほどでした。

3年生の夏に合同チームの全国大会である「KOBELCO CUP」に出場することができ、とても良い経験になりました。

更にうれしかったのは全国大会の決勝戦の前に「花園」でプレーすることができる「U18東西対抗戦」に東軍のメンバーとして選ばれたことです。

前半だけの出場でしたが、憧れの「花園」でバリバリに緊張したことを覚えています。

当時の東軍のチームメイトとは今も交流しています。

そして大学進学後も日々努力をし、2年生の夏にU19の日本代表に選出され、初めての海外遠征を経験し、成長させてもらいました。

この大会があったから、今の私があると思います。

人生を変えたとても大きな大会でした。

今年の大会に出場されるみなさんも「U18 東西対抗戦」を目標にがんばってください。

**Profile**

日体荏原高校でラグビーを始めるも、大学では2年生でU19の日本代表を経験。昨シーズンはケガに泣かされたが、今年は4年生となる大学最後のシーズンに賭ける。

やまさわ たくや

**山沢 拓也** (SO)  
筑波大学 2年

第6回大会 (2010年)  
U17 関東ブロックで出場



自分は高校から本格的にラグビーに取り組みました。1年生の時、幸いにもU17 関東チームに選ばれ、出場したこの大会で優勝というとても得がたい経験をする事ができました。大会では、今まで経験したことのないWTBというポジションで全試合に出場させてもらえました。

また、全国の様々なブロックとの試合は、自分にとってとてもためになりました。特にカップの部決勝の近畿戦の時は、簡単にタッチに出たり、ディフェンスで抜かれてしまったりして、自分自身はチームにまったく貢献することが出来ませんでした。チームとしては逆転勝利で優勝という最高の形で終わることが出来ました。自分にとっては、少し悔いが残る試合となってしまいましたが...。大会終了後、U17日本代表に関東チームから11人も選ばれましたが、自分の名前はありませんでした。とても悔しかったのをよく覚えています。

この大会に、1年生の時に出場できたことによって早い段階で色々な地域のレベルを体感することができ、「それがあったからこそ、今の自分がある」と言えるようなとても大きな大会でした。

**Profile**

埼玉県立深谷高校入学後に本格的にラグビーを始めるも、早くも才能を開花させ2年生で高校日本代表、3年生ではジュニア日本代表候補と常に1つ上のカテゴリーの代表で活躍する逸材。大学でも、ルーキーイヤーとなった昨シーズンから大活躍を見せた。

アシックスカップ 2014 KOBELCO CUP 2014  
開催会場

**今年の夏は、菅平へ行こう!**

くわしくは菅平高原観光協会ホームページをご覧ください

<http://sugadaira.com/>

アシックスカップ 2014 7/19(土)~21(月) KOBELCO CUP 2014 8/1(金)~3(日)  
第1回 全国高等学校7人制ラグビーフットボール大会 第10回 全国高等学校合同チームラグビーフットボール大会  
第4回 全国高等学校女子7人制ラグビーフットボール大会

車でアクセス

上田菅平・須坂長野東各I.Cより約30分



JRでアクセス

東京から約2時間5分





7人制ラグビー(セブンズ)は2016年にリオデジャネイロで開かれる第31回オリンピック競技大会でデビューする最も新しいオリンピック競技で、2020年の東京オリンピックでも実施されることが決まっています。

2年後に迫ったオリンピックの舞台に向け、セブンズの競技力向上は日本ラグビー界の大きなテーマであり、さらに6年後の東京オリンピックに向けては、ユース世代からのセブンズ強化が求められています。

そんな中、今年からセブンズの高校ナンバーワンを決める大会「アシックスカップ 2014 第1回全国高等学校7人制ラグビーフットボール大会」が新設されます。

全国47都道府県の代表が夏の菅平に集い、セブンズ高校日本一の座をかけて戦います。

この「アシックスカップ」の開催がきっかけとなり、高校世代でのセブンズの強化と普及が進み、2020年の東京オリンピックの舞台へ一人でも多くの選手がこの大会から羽ばたいてほしいものです。



3月の記者発表にて  
日本ラグビーフットボール協会高島副会長(左)と  
アシックス尾山社長

### アシックスカップ 2014 第1回全国高等学校7人制ラグビーフットボール大会

大会日程: 7月19日(土) ~ 21日(月・祝)  
19(土)/予選リーグ 20(日)/講習会 21(月・祝)/決勝リーグ  
会場: 長野県上田市菅平高原「サニアパーク菅平」

### Message



株式会社アシックス  
代表取締役社長 CEO  
尾山 基

全国高等学校7人制ラグビーフットボール大会の第1回目となる大会において、「アシックスカップ2014」という名称でサポート出来ることを、非常に喜ばしく思います。

今後は、本大会を通して出来る限りのサポートを行っていき、日本におけるラグビー競技の発展と、選手をはじめとする人材の育成に少しでも貢献出来ればと考えております。大会への応援、ご声援をよろしく申し上げます。



### Rugby in Japan 日本ラグビーのこれから

高校生を中心としたユース世代の今後はビッグイベントが目白押しです。まずは、5年後に迫った「ラグビーワールドカップ2019」。4年に一度の世界一決定戦が、ついに日本へやって来て、世界のスター選手の夢の競演が実現することになります。

ラグビーワールドカップが始まったのは1987年で、初代王者となったのは、ラグビー王国ニュージーランド代表のオールブラックス。以降、世界のラグビー界はワールドカップを軸にまわっ

ています。世界の強豪20チームが参加し、世界のスーパースターが集い、華麗なプレーで観客を魅了する。そんな興奮と感動が5年後には日本にやってくるのです。2015年3月には、試合開催会場も決定する予定で、これからどんどん盛り上がっていくことでしょう。

また、その翌年にはもう一つのビッグイベント「2020年東京オリンピック」が控えています。2016年のリオデジャネイロオリンピックから正式種目となる男女の7人制ラグビーは、東京が第2回の大会となり、現在もセブンズでは、藤田(早稲田大学)、福岡(筑波大学)ら若手選手も日本代表の中心選手として活躍しており、現在の高校生を中心としたユース世代が、6年後の東京オリンピックの大舞台に立つことも夢ではありません。これらの大会を成功させるためにも、強い日本代表への期待はとて大きく、ユース世代の強化は不可欠となっています。ぜひ、皆さんで「高校ラグビー」を応援して下さい!

## RUGBY WORLD CUP

歴代開催国	優勝国
第1回(1987年)/ニュージーランド・オーストラリア共催	ニュージーランド
第2回(1991年)/英国(イングランド)	オーストラリア
第3回(1995年)/南アフリカ	南アフリカ
第4回(1999年)/英国(ウェールズ)	オーストラリア
第5回(2003年)/オーストラリア	イングランド
第6回(2007年)/フランス	南アフリカ
第7回(2011年)/ニュージーランド	ニュージーランド
第8回(2015年)/イングランド開催	
第9回(2019年)/日本開催	



2013年6月15日、秩父宮ラグビー場で  
日本代表が世界ランキング5位、  
ヨーロッパ王者のウェールズ代表を  
23-8で下す歴史的勝利!  
ワールドカップ2019に向けて  
着実にレベルアップした実力を見せた。

